

高齢化を活かしたまちづくり～子育て環境の改善を目指して～

1 概要

現在、日本は4人に1人が65歳以上という高齢社会であり、人口推計を踏まえると高齢化率は今後も上昇する見込みである。少子化においても、1年で公立学校が400校以上廃校になっており、少子高齢化は日本にとって非常に大きな問題である。本提案では、高齢化と少子化に着目して、子育て環境の改善を目指したまちづくりの提案を行う。

2 少子高齢化による問題

本提案では、以下の問題への対策を考える。

2-1 高齢化における問題

- ・核家族世帯の増加により高齢者のみで暮らす世帯の増加
- ・退職等による高齢者の充実感や生きがいの不足

2-2 子育てにおける問題

- ・幼稚園、保育園の不足
- ・共働き世帯の増加による子どもが大人と過ごす時間の減少

3 提案

本提案のおおまかな内容は、小学生以下の子どもを対象として、親がいない時間に、近所の高齢者に子どもをあずけるというものである。言うなれば、祖父母の家に子どもをあずけるイメージである。こう聞くと、全く特別なことではないように聞こえる。しかし、近年ではご近所付き合いが希薄になり、ひょつとすると隣に住んでいる人の名前すら知らない人も多いかもしれない。そんなご近所付き合いが希薄な状態を打破し、地域全体で子育てをできるようにしていくことが、このまちづくりの目標だ。以上から、私は高齢化を活かした子育て環境の改善を目指したまちづくりを実現するため、「地域のひととの繋がりを深め、地域全体で子育てをできるまち」を提案する。

4 具体例

この提案の取り組みの例をあげる。各自治体の公民館や集会所、あるいは空き家等を利用して、地域の人が気軽に集まることのできる場を定める。そこに子どもをあずけることができるようにするために、当番制にするなどして確実に複数の高齢者がその場にいるようにする。また、保護者の安心と子どもの安全のために、保育士やチャイルドマインダー等の子どもをあずかるための資格を持った人（高齢者に限らない）もいることが望ましい。休日には、季節に応じたイベント（餅つきなど）を開催することで、地域住民の繋がりを深めることができる。

5 メリット

5-1 高齢者のメリット

- ・新たな生きがいや充実感を得ることができる。

5-2 保護者のメリット

- ・幼稚園や保育園が対応できない時間にも子どもをあずけることができる。
- ・子育ての不安や悩みを子育ての経験者である高齢者に相談することができる。

5-3 子どものメリット

- ・両親以外の頼れる大人が増える。
- ・家庭とは違った価値観に触れることができる。
- ・日本の歴史や伝統を知る機会が増える。

5-4 地域全体のメリット

- ・地域の人と繋がりを深めることができる。
- ・高齢者の健康状態や子どもの成長を地域全体で見守ることができる。

6 今後の課題

この提案では、地域の人々の信頼関係が重要になるが、子育て方針や責任問題、また金銭的な問題は、信頼関係だけでなく、確実にルールを定めて運営していく必要があると考える。しかし、人の価値観は様々であるため、このルールを決めるだけでも相当な時間を要することが予測される。こういった面で、いかにしてルールをつくりあげていくかは今後の大きな課題である。

7 まとめ

私が生まれる少し前の日本は、現在ほど豊かで便利な暮らしではなかったが、高齢者は毎日充実感を得ながら過ごし、親は安心して働くことができ、子どもはたくさんの大人に見守られ、ときには叱られながら成長する、そんな生活が当たり前であったと思う。そのころには、自然とこの提案のようなことのできる、地域の人との繋がりの深いまちがあった。この提案によって、現在の日本の社会でそのような暮らしができるまちが増え、私自身もそのようなまちで暮らすことが私の夢である。